

令和 6 年 5 月 13 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00755

研究課題名(和文) 文系学生のための英語聴解力養成用Web教材の開発

研究課題名(英文) Development of English Listening CALL Materials for Humanities and Social Science Students

研究代表者

与那覇 信恵 (Yonaha, Nobue)

千葉大学・大学院国際学術研究院・准教授

研究者番号：30522198

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、長年継続されてきた教材開発研究の一環として、それまで未開発であった人文科学、社会科学分野の聴解力養成を目的とした英語CALL教材を開発することであった。社会科学系教材は、マーケティング、経済学、法務翻訳、メディアについての講義、人文社会系教材の素材は、応用言語学、考古学、美術史、文化研究に関わる講義を素材とし、タスク、ヒント、学習をサポートするための各種情報からなるコースウェアを分担者、代表者が協力して作成し、動画、静止画、音声と共に教材プログラムに組み込み、それぞれ約30～50時間の学修を想定した英語Web教材2タイトルを完成させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会科学・人文科学を専門とする学部で学ぶ大学生は、日本全体の6～7割を占めると言われているにも関わらず、専門英語教材が不足している。本研究は、人文科学、社会科学分野の研究者だけではなく実務者による講義を素材とすることで、文系学生のニーズや興味に合わせた教材とすることを目指した。また、効果が実証された指導理論に基づき、CALL教材開発経験が豊富な分担者・代表者が協力して開発することで、妥当性の高い教材とすることができたと考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop two titles of CALL materials for the training of English listening comprehension in the field of humanities and social sciences as part of a long-standing and ongoing study to develop teaching materials. Videos of lectures relating to the fields of business, economics, legal translation, media, applied linguistics, archaeology, art history, and cultural studies were used in the materials. The project members created courseware consisting of tasks, hints, and various information to support learning and incorporated it into the teaching material program along with videos, pictures, and audio. As a result, two English web-based teaching materials, each designed for approximately 30 to 50 hours of learning, were completed.

研究分野：英語教育

キーワード：英語Web教材 専門英語 聴解力養成 人文科学 社会科学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

グローバル化が進み、人・物・情報が国境を越えて移動し共有される場面が増えるなか、大学の国際化も積極的に進められており、英語による授業 (EMI: English-medium Instruction) を実施する大学が増加し、海外に留学する学生も増えている。この流れのなかで、代表者所属大学(以下本学)では、2020年度に「全員留学」を核のひとつとした大規模な教育改革を実施した。この改革により、在学中に全学生が海外の大学で学ぶ経験をする事になり、学生が英語を使って学修および研究活動をする機会が増加している。

学生が入学前に十分な英語基礎力を身に付けているのであれば、大学では専門教育を英語で実施する体制を整えればよいことになるが、現状はそうではない。本学では4月に入学生全員を対象に実施した TOEFL ITP を毎年実施しているが、「アカデミックな講義や会話中の主要な内容を理解できる」(Educational Testing Service, 2019) とされる Common European Framework of Reference for Languages の C1 レベル相当の学生はほぼいない。B1 が 60%弱で、初級者とされる A2 の学生も 40%いるという状況である。このことから大部分の学生には英語の受信力も不足していることがわかる。

言語習得において発信力は受信力を基にしていること、聴解力は他技能への転移が大きいことから、その効率的な指導は欠かせない。本学では、効率的のよい方法で自習時間も活用できる英語学習を可能にするために、20 数年前から独自に Computer-assisted Language Learning (CALL) 教材を開発し、それを使った指導を行ってきた。開発済みの教材は数十種類におよび、上述の新英語カリキュラムでも CALL は重要な役割を果たしている。しかし、本研究開始時点では文系の学生向けの教材が不足していた。そこで、人文科学、社会科学分野の English for Specific Academic Purposes (ESAP) 教材を開発することで、本学のすべての学生がそれぞれの専門に合った CALL 教材を使える体制を整えることを目指すことにした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、未開発であった人文科学、社会科学分野の聴解力養成を目的とした CALL 教材を開発し、学修・研究を英語で行う力を養成する英語カリキュラムの完成を目指すことである。そのために、それぞれの分野の専門家に講義を依頼し、それを撮影した動画を教材の素材とする。また、言語能力の基礎となる聴解力を効果的に養成するため、認知心理学、学習心理学、教育工学等の知見を応用し、多くの基礎研究に基づいて数十年かけて開発された英語教育総合システムの構想である「三ラウンド・システム」(竹蓋・水光 2005) に基づいた教材開発を行う。

3. 研究の方法

教材の開発は、素材の作成と教材開発の2段階で行った。は2021年度に実施し、は2022～2023年度にかけて実施した。

教材の素材となる動画は、国内在住の専門家に講義を依頼し、それを撮影することで作成した。社会科学系教材の素材は、研究者によるマーケティング、起業家による経済学、翻訳家による法務翻訳、映画制作者によるメディアについての講義であった。人文社会系教材の素材は、研究者による応用言語学、民間機関に勤める専門家による考古学、元学芸員による美術史、研究者による文化研究に関わる講義であった。主に専門科目受講前の学部1年生が教材を使用することを想定し、高校生でも理解できる内容にすること、自然な英語素材とするために準備した台本等を読むのではなく聴者が目の前にいるように自然な速度で話すように依頼した。

教材開発にあたって、教材の核となるコースウェア(教材内で提示する学習活動に関する指示と学習を助ける補助情報)は、CALL教材開発経験豊富な分担者・代表者が協力して作成した。それぞれの教材で数千画面分のコースウェアが必要になるが、その作成、見直し、修正には、1教材あたり9か月ほどかけて行った。

本研究で開発を行っている CALL 教材 Listen to Me! シリーズは、内容理解を助け、動機付けを高めるために多くの静止画が使われていることも特徴の1つである。これまでに開発された CALL 教材の静止画は、動画撮影を行った海外で写真撮影が行われることが多かった。しかし、本研究の動画素材は国内で撮影された講義であり、その内容を表す静止画が必要であったことから、話者から提供されたスライドに加え、多くは著作権フリー素材を購入することによって収集した。また、講義の内容理解を助けるためのグラフや図は教材開発者が作成した。教材中に提示する静止画は各教材約500枚程度となった。

4. 研究成果

当初の計画通り、2022年度末に社会科学系教材、2023年度末に人文科学系教材、合わせて2タイトルの教材が完成した。それぞれの教材は約30～50時間の学修を想定したものである。開発された教材の画面例を図1～図6に示す。

図1：English for Social Sciences 開始画面



図2：English for Humanities 開始画面



図3：Unit 選択画面



図4：学習画面例1

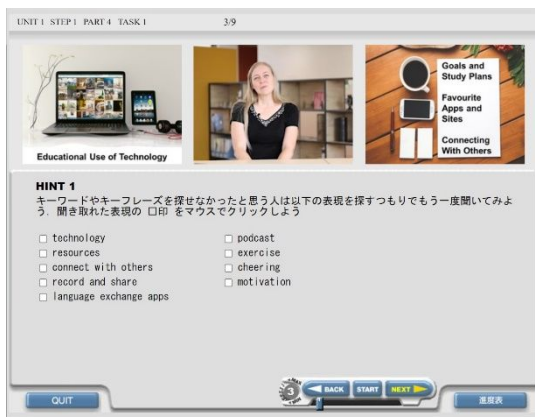


図5：学習画面例2

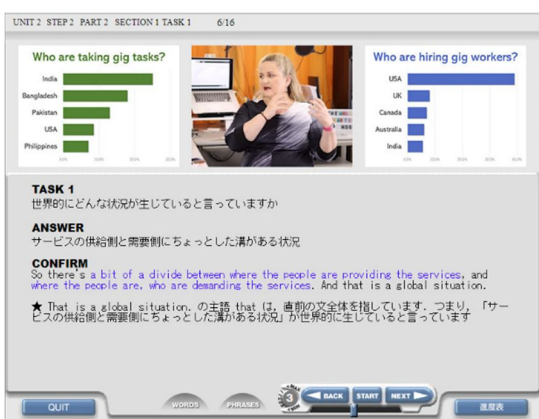


図6：発展語彙学習画面例

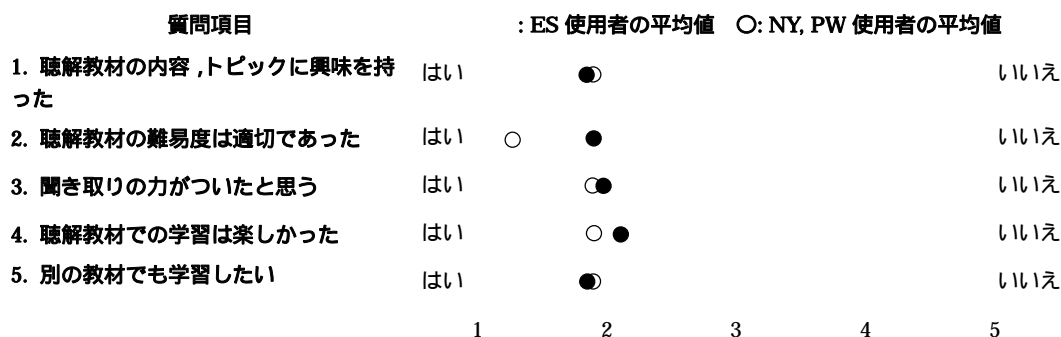


本研究により開発した社会科学系教材 English for Social Sciences は2023年度前期に週2回の英語科目で小規模な試用を行った。この科目では、教材を学生の英語習熟度レベルによって割り当てるが、中上級レベルの学生に上記教材を割り当て、教材以外は指導方法を全く変えずに授業を行った。教材での学習終了後に実施したアンケートの集計結果を図7に示す。なお、同じクラスで別の教材（NYとPW）を使用していた学習者の回答結果も、比較のために図中に示している。

図7から、項目1, 3, 4, 5についてはNY, PW使用者とそれほど変わらない結果であるこ

とがわかる。一方、難易度を問う項目 2 では、NY、PW よりもやや評価が低いという結果になった。学術的な語彙や専門分野の語彙が多く含まれた講義スタイルの素材が難しく感じた学習者が多かった可能性があるが、この結果の原因について今後検証を進めていく予定である。

図 7：学習者による教材の 5 段階評価平均値の比較



本学で使用している CALL システムは 2022~2023 年度にかけての大規模改修を行ったが、その結果、指定の名前をつけた教材の文字情報を記述した XML ファイルと、動画ファイル、静止画ファイルを、指定のフォルダに格納してシステム上にアップロードすることで、CALL 教材として完成できるようになった。本研究により開発した教材は 2023 年度まで使用していた学内設置サーバ上の CALL システムに登録して小規模な試用した後、この新しいシステムにも組み込み、2024 年度から全学部 1 年生を対象とした英語科目で本格使用を開始している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 与那覇信恵, 楠知美, 竹蓋順子, 高橋秀夫	4. 巻 6
2. 論文標題 高等学校の正規英語授業でCALL教材を活用した指導実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 千葉大学国際教養学研究	6. 最初と最後の頁 133-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S24326291-6-P133	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 与那覇 信恵、土肥 充、竹蓋 順子、阿佐 宏一郎、ルーク ハリントン、セーラ モリカワ、高橋 秀夫	4. 巻 1
2. 論文標題 文系学生のための英語聴解力養成用CALL 教材の開発 : 社会科学系教材	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of English Language Education and Research	6. 最初と最後の頁 88 ~ 98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/s2758707x-1-p88	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 竹蓋 順子、与那覇 信恵、高橋 秀夫	4. 巻 1
2. 論文標題 LTM-CALL システムを活用した千葉大学の英語教育の現状と展望	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of English Language Education and Research	6. 最初と最後の頁 110 ~ 123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S2758707X-1-P110	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 高橋 秀夫、与那覇 信恵	4. 巻 5
2. 論文標題 工学系 EAP CALL 教材の使用とその学習効果	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 千葉大学国際教養学研究 = Journal of Liberal Arts and Sciences, Chiba University	6. 最初と最後の頁 207 ~ 220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S24326291-5-P207	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 与那覇 信恵、竹蓋 順子、土肥 充、高橋 秀夫	4. 巻 15
2. 論文標題 MoodleとCALLシステムによるオンデマンド英語授業の実践	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 e-Learning教育研究	6. 最初と最後の頁 37～46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20623/well.15.0_37	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 与那覇 信恵、土肥 充、竹蓋 順子、阿佐 宏一郎、セーラ モリカワ
2. 発表標題 英語聴解力養成のための社会科学・人文科学分野CALL教材の開発
3. 学会等名 外国語教育メディア学会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

〔産業財産権〕

〔その他〕

English for Social Sciences (英語Web教材) English for Humanities (英語Web教材)

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 秀夫 (Takahashi Hideo) (30226873)	千葉大学・大学院国際学術研究院・教授 (12501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹蓋 順子 (Takefuta Junko) (00352740)	千葉大学・大学院国際学術研究院・教授 (12501)	
研究分担者	土肥 充 (Doi Mitsuru) (00323428)	國學院大學・教育開発推進機構・教授 (32614)	
研究分担者	阿佐 宏一郎 (Asa Koichiro) (30558804)	文京学院大学・外国語学部・准教授 (32413)	
研究分担者	森川 セーラ (Morikawa Sarah) (80506882)	千葉大学・大学院国際学術研究院・准教授 (12501)	
研究分担者	ハリントン ルーク (Harrington Luke) (70636274)	千葉大学・国際未来教育基幹・特別語学講師 (12501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関